

（2）授業デザインと「見方・考え方」
「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進める際には、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。
そこで、各教科等の学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、「見方・考え方」を働かせる授業を実現するための学習活動の工夫について記載されている（※2）。
「子どもたちが学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせられるようすることにこそ、教員の専門性が發揮されることが求められる」とされ、「深い学び」の視点から授業改善をし、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。
（2）「見方・考え方」を働かせることによる学習指導要領の教科等の目標に含まれている（※1）ことを確認する必要がある。

「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする議論が展開され、各教科等において育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づき整理されるとともに、「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」とされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なると言える。さらに、「見方・考え方」は「教科等の教育と社会をつなぐ」、言い換えれば、子どもたちが大人になつて生活していく際にも重要な働きをするものである。

【参考】
小学校学習指導要領（平成二十九年告示）

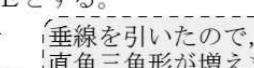
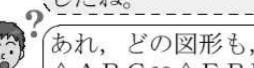
算数、数学

統合的・発展的に考察する過程につなげる授業づくり

学習課題を設定する場面、見通しをもつ場面、学び合いの場面等で、数学的な見方・考え方を働かせて資質・能力を育む授業の更なる充実が求められます。特に学び合いの場面では、より質の高い深い学びになるように統合的・発展的に考察することが大切です。統合的・発展的に考察することにつながる問い合わせを引き出すまでの例を示します。

中学校の指導事例 第3学年 相似な図形 (6 / 20)

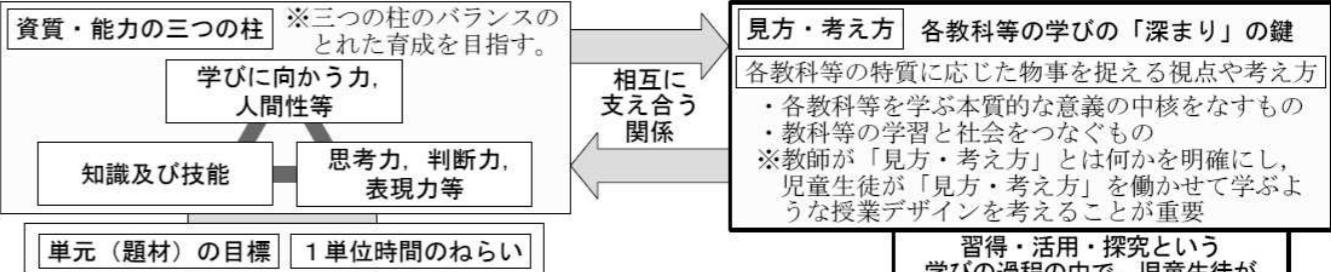
〈ねらい〉 直角三角形の一辺に垂線を引いてできた図形から相似な三角形の組を見付け、三角形の相似条件を利用して、証明することができる。

学習課題を設定する場面	見通しをもつ場面、学び合いの場面
<p>導入 次のような図をかきましょう。 ① $\angle A = 90^\circ$ の $\triangle ABC$ をかく。 ② 辺 AB 上に点 D をとり、点 D から 辺 BC への垂線を引き、辺 BC と の交点を E とする。</p>	<p>見通し 昨日学習した相似条件を 使えば証明できるかも。</p> <p>(合同の証明手順を示した学習掲 示も参考にできそうですね。)</p>
<p>太郎</p>  <p>垂線を引いたので、直角三角形が増えましたね。</p> <p>健太</p>  <p>あれ、どの図形も、$\triangle ABC \sim \triangle EBD$ になっているんじゃないかな。</p> <p>直角三角形の辺上の点から他の辺に垂線を引いてできた図形は、垂線を引く場所が異なっても必ず相似になりますか。</p>	<p>見通しをもつ場面のポイント 課題解決に向けて、既習事項を活用させたり、児童生徒の実態に合わせて手立てを工夫したりすることなどが大切です。</p> <p>学び合い①の場面のポイント 解決できていることや困っていることなどを見取り、取り上げ方に軽重を付けることが大切です。</p> <p>学び合い②の場面のポイント 統合的・発展的に考察せるために、一旦解決された問題などを振り返らせ、新たな問題の発見を促すことが大切です。</p>
<p>学習課題を設定する場面のポイント 児童生徒から引き出した問い合わせを基に学習課題を設定し、課題解決への必要感をもたせることが大切です。</p>	<p>見通しをもつ場面、学び合いの場面</p> <p>学び合い① 証明が途中の人もいました。相似条件の根拠は見付かりましたか。</p> <p>$\angle BAC = \angle BED = 90^\circ$ は分かるけど…</p> <p>二つの角がぴったり重なっているので、$\angle ABC = \angle EBD$ がいえます。</p> <p>そうか、これで相似条件「二組の角がそれぞれ等しい」がいえます。</p> <p>学び合い② 花子さんは、下のような図をかきました。相似な三角形の組はありますか。</p> <p>$\triangle ABC$ と $\triangle EBA$ は、この図でも相似だね。</p> <p>$\triangle ABC \sim \triangle EAC$ も、さつきの学び合いと同じように証明できるんじゃないかな。</p> <p>△ABE と △CAE は重なっている角がないけど、相似かなあ。相似に見えるけど…</p> <p>*統合的・発展的な考察につながる問い合わせ</p>

単元（題材）及び授業構想のポイント

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

各教科等において目指す資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図ることが大切です。特に、「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」であり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くかせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。



授業改善の視点

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
<p>○学ぶことに興味や関心をもつ ○自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる</p>	<p>○自分の考えをもった上で話し合う ○他者との協働や対話、先哲の考えに触れることにより、自己的の考えを広げ深める</p> 	<p>○知識を相互に関連付けてより深く理解していく ○情報を精査して考えを形成していく ○問題を見いだして解決策を考えていく ○思いや考えを基に創造していく</p>

[留意事項] •児童生徒の学びの姿から三つの視点の実現状況を把握し、一体として改善・充実が図られるようにする。
•一人一人の児童生徒や学校の実態を的確に把握し、授業を組み立てる。
•単元や題材など内容や時間のまとめを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

授業改善と評価



- 児童生徒が「見方・考え方」を働きかせているかどうか自体は評価の対象とするものではありません。しかし、授業の中での児童生徒の学びを振り返り、授業改善を行う中で、児童生徒が「見方・考え方」を働きかせることができていたかを確認し、更なる指導の改善等につなげることが重要です。

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の鍵となるのが「見方・考え方」である。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもつてゐる知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。

この、「見方・考え方」とは何なのか、「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の実現に向けてどのように配慮すればよいのだろうか。

I 「見方・考え方」とは何か

(1) 「見方・考え方」の定義

学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るために視点や考え方が、「見方・考え方」である。

従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

I 「見方・考え方」とは何か

I 「見方・考え方」とは

I 「見方・考え方」とは何か

(1) 「見方・考え方」の定義

(3) 「見力」「考究力」と資質・能力の三つの柱の関係

(3) 「見力・考え方」と資質 三つの柱の関係

学習指導要領において「見方・考え方」とは、育成を目指す資質・能力の三つの柱とは別の概念として整理されている。

「見方・考え方」は「深い学び」の鍵になるものとされているが、これは「見方・考え方」を働かせることによって資質・能力が育まれることによるものである。子どもたちが資質・能力を獲得する過程で、子どもたちが「働かせる」ものである。

また、「見方・考え方」を働かせることで資質・能力が更に育まれたり、新たな資質・能力が育まれたりする。またそれによつて「見方・考え方」が更に豊かになる。というように、「見方・考え方」と資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

資質・能力を育成する
「見方・考え方」を働かせる」とを通して

(2) 「深い学び」と「見方・考え方」

今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点から、「深い学び」の視点は極めて重要であるとされていた。「深まり」を欠くと表面的な活動に陥ってしまうという指摘もあつたからである。

また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに對し、「深い学び」在り方は各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるといふ見解が示された。

(2) 「深い学び」と「見方・考え方」

今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点から